秋田魁新報　2026年10月23日付　県央

輸送船操作訓練
男鹿工高生体験
洋上風力育成施設訪問

男鹿工業高校（男鹿市船越）の3年生が、洋上風力発電設備の作業員などを育成する訓練センター「風と海の学校あきた」（同市船川港）を訪れ、訓練の一部を体験した。

センターは、海運大手の日本郵船（東京）と日本海洋事業（神奈川県）が2024年に男鹿海洋高校内に開設。作業中の事故対応を学ぶなどの機能を備える。



この日は、日本海洋事業の担当者がセンター設立の経緯について「国が洋上風力発電の導入を進める中、県と日本郵船が包括連携協定を締結していたことから県内に開設した」と説明した。生徒は、洋上風力設備に作業員を運ぶ輸送船のシミュレーター操作に挑戦。モニターを見ながらレバーを動かし、船体を風車に近づける作業を体験した。

参加した鈴木洋介さんは「秋田は洋上風力に関わる作業員の育成環境が整っていると感じた。今後、就職する際の参考にしたい」と語った。

県が15日に実施。教育機関、企業が連携し、洋上風力関連事業の人材育成につなげようと企画した。（阿部拓郎）

輸送船の操縦を疑似体験する男鹿工高生徒

ⓒ秋田魁新報社